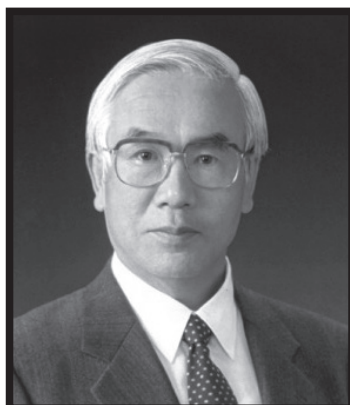




## 井上 一 先生 略歴

昭和 14 年 5 月 28 日生

### 【職歴】

昭和 39 年 岡山大学医学部卒業  
 昭和 44 年 岡山大学大学院博士課程修了  
 昭和 45 年 フィンランド・英国に留学  
 昭和 48 年 岡山大学医学部附属病院整形外科助手  
 昭和 49 年 英国にて研修  
 昭和 59 年 岡山大学医学部附属病院整形外科講師  
 昭和 62 年 岡山大学医学部整形外科助教授  
 平成 2 年 岡山大学医学部整形外科教授  
 岡山大学医学部附属病院理学療法部長併任  
 フィンランド・リウマチ学会名誉会員  
 中国・上海医科大学整形外科客員教授  
 平成 7 年 中国・江西医学院名誉教授  
 平成 12 年 岡山大学医学部附属病院長  
 岡山大学保健管理センター所長併任  
 岡山大学評議員併任  
 平成 13 年 岡山大学大学院医歯学総合研究科教授  
 平成 14 年 岡山大学医学部附属病院リハビリテーション部長  
 平成 15 年 岡山大学副学長・(兼)岡山大学中央図書館長  
 平成 16 年 国立大学法人岡山大学理事・副学長(安全・健康・医療担当)  
 平成 17 年 岡山大学名誉教授  
 香川労災病院長

### 【資格】

昭和 58 年 日本整形外科学会専門医  
 昭和 61 年 日本整形外科学会リウマチ認定医

平成元年 日本リウマチ財団登録医  
 平成 2 年 日本リウマチ学会専門医(認定医)  
 日本リウマチ学会指導医  
 平成 5 年 日本リハビリテーション医学会専門医  
 平成 15 年 日本リハビリテーション医学会指導責任者

### 【受賞歴】

昭和 47 年 国際整形災害外科学会賞受賞(関節軟骨の研究)  
 国際出版文化賞受賞(Atlas of SEM in Medicine の出版)  
 昭和 48 年 日本リウマチ学会賞受賞  
 平成 11 年 上原記念生命科学財団研究助成金  
 日本リウマチ財団学術奨励賞受賞

### 【学会役員】

平成元年 日本肘関節学会 理事  
 平成 2 年 中国・四国整形外科学会 常任幹事  
 平成 8 年 日本理学診療医学会 常任理事  
 平成 9 年 日本軟骨代謝学会 理事  
 平成 10 年 日本リハビリテーション医学会 中国四国地方会 理事  
 日本リウマチ・関節外科学会 理事  
 平成 11 年 日本リウマチ学会 理事  
 日本膝関節学会 理事  
 平成 13 年 ARO (Assoz. für Rheumaorthopädie) Corresponding Member  
 平成 14 年 日本リウマチ友の会 理事  
 平成 15 年 日本整形外科学会 理事

令和5年3月26日、日本整形外科学会名誉会員、岡山大学名誉教授、本誌元編集主幹の井上一先生が行年84歳で帰らぬ人となりました。私どもも突然の訃報に驚きを禁じ得ませんでした。

先生は昭和39年に岡山大学医学部をご卒業になり、昭和44年には岡山大学大学院博士課程を修了されました。昭和45～46年にはフィンランドと英国に留学されました。昭和59年より岡山大学医学部附属病院整形外科講師、昭和62年より岡山大学医学部整形外科助教授、そして平成2年に岡山大学医学部整形外科教授に就任されました。平成12～14年には岡山大学医学部附属病院長、平成16～17年には国立大学法人岡山大学理事・副学長としてご活躍され、大学を定年退職された後、平成17～22年には香川労災病院長もお務めになりました。

先生は、関節軟骨や脊椎椎間板の微細構造とその変性を走査電子顕微鏡で明らかにしました。また、軟骨破壊のメカニズムの解明とその制御、リウマチ滑膜の増殖機構の解明などに多くのご業績を残されました。また、先生は人工関節の開発や関節再建術の開発でも多数の業績を残されています。特に、人工肘関節の開発は、特筆すべきお仕事の1つで、世界の他の人工肘関節と比べても遜色のない良好な臨床成績を取っています。そのような多くのご業績により、昭和47年に国際整形災害外科学会賞、昭和48年には日本リウマチ学会賞を受賞、平成2年にフィンランド・リウマチ学会名誉会員にご就任され、さらに平成11年には日本

リウマチ財団学術奨励賞を受賞されています。

井上 一 先生の主な主催学会には、第87回中部日本整形外科災害外科学会(平成8年)、第8回日韓整形外科合同シンポジウム(平成9年)、第8回日台整形外科合同シンポジウム(平成10年)、第28回日本リウマチ・関節外科学会(平成12年)、第75回日本整形外科学会学術集会(平成14年)、第48回日本リウマチ学会総会・学術集会(平成16年)などがあります。

いつも若手の教育を大切に考えられ、国際化や業績を英語で残すことの重要性をご指導いただきました。また、大変気さくな先生でいらっしやっただので、国内の多くの若手整形外科医に慕われておりました。

本誌とのかかわりは、平成8年1月号から4年間編集委員を、平成12年1月号から5年半編集主幹を、平成17年7月号から編集顧問をご逝去まで務められました。「難治性骨・関節疾患の取り扱い」、「関節外科におけるクリティカル・パス」、「RAの早期診断とガイドライン」などの特集を担当されましたが、増刊号として編集された「最近の画像診断と整形外科疾患の関わり合い(平成12年)」、「各種疾患に対する整形外科的リハビリテーション(平成15年)」が代表的です。

引き続き先生の訓えを守り、整形外科の発展に尽くすとともに、本誌をいっそう発展させることが、私たち編集委員の務めと思っております。改めまして、先生のこれまでのご功績を偲びますとともに、心よりご冥福をお祈りいたします。

岡山大学整形外科教授、本誌編集委員 尾崎敏文